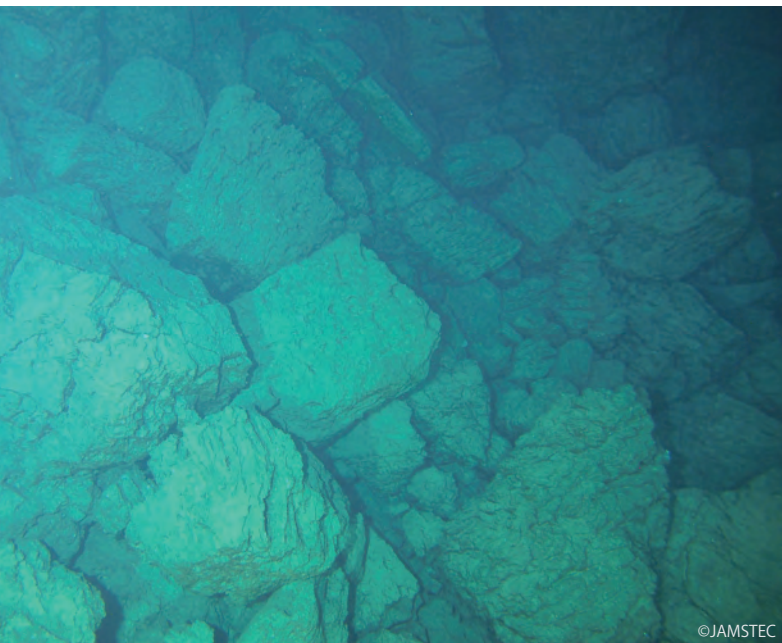


マグマが語る琉球列島の形成史

大陸と海の地質をつなぐもの



海底火山噴火によって深海に積もった巨大軽石（水深約620m、奄美大島北西沖）



中新世に活動した閃緑岩の露頭（沖縄県渡名喜村）

2025.

9.20 土

入場無料 14:00~16:00
(開場 13:30)

講師 谷 健一郎 氏
(国立科学博物館・理学研究部)

会場 沖縄県立博物館・美術館
3F 講堂

受付 当日先着（定員200名）

お問合せ 098-941-8200
〒900-0006
沖縄県那覇市おもろまち3-1-1

琉球列島の島々や周辺海域には、マグマが固まってできた火成岩や海底火山が点在しています。私たちは陸上だけでなく、有人潜水船「しんかい6500」などで深海調査を行い、琉球列島が大陸の縁で形成され、現在の形に至るまでのマグマ活動の歴史を調査してきました。

本講演では、これまでの調査成果をもとに、琉球列島の成り立ちと現在も活動している海底火山活動について、深海の映像などを交えながらわかりやすくご紹介します。

【キーワード】#琉球列島 #地質 #海底火山



【講師】谷 健一郎（たに けんいちろう）国立科学博物館・理学研究部

1977年生まれ。専門は海洋地質学、岩石学、地球年代学。大陸地殻、特に花崗岩質地殻がどのように形成・成長してきたのかを解明することが研究テーマ。高校時代からの登山好きが高じて地質学を志すも、なぜか主なフィールドは深海に。山に登りたくて選んだ道が海底に続いていたことが、人生最大のジレンマ。

